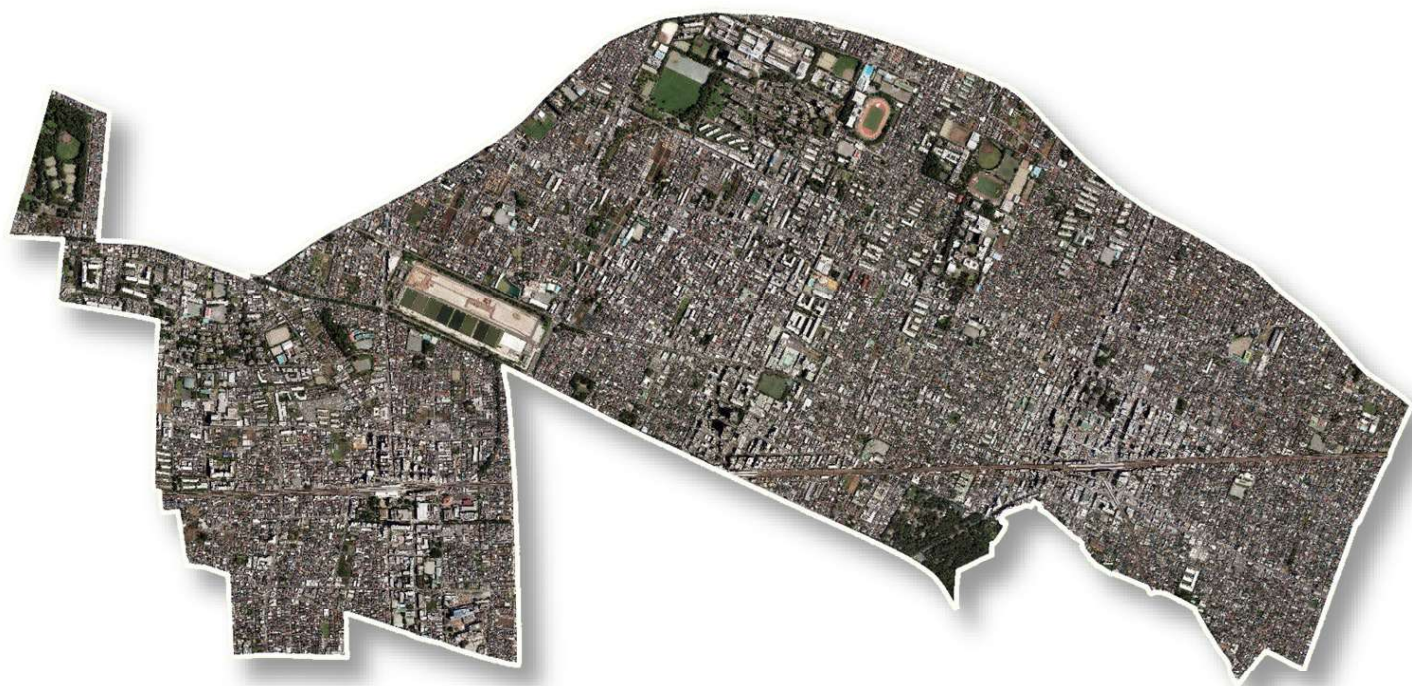
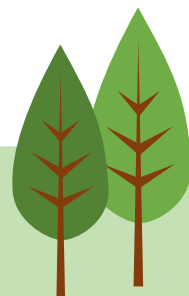


武蔵野市のみどり

令和8年4月

令和6・7年度 武蔵野市自然環境等実態調査報告書 概要版



緑被率

令和6年の武蔵野市の緑被地面積は267.70ha、緑被率は24.4%で、市域面積1,098haの約4分の1を占めています。

緑被地面積：267.70ha

緑 被 率：24.4%



調査のあらまし

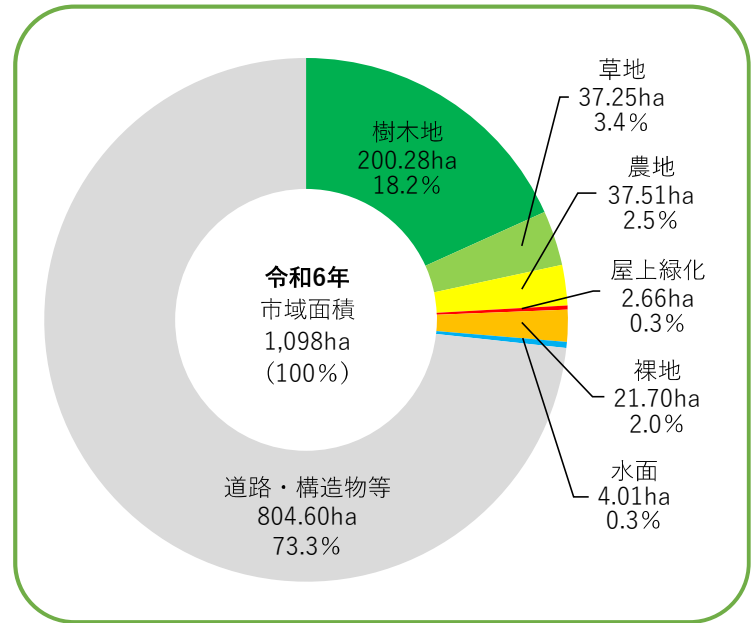
武蔵野市では、緑の状況を把握することを目的に、昭和47年から概ね5年ごとに緑の実態調査を実施しており、令和6年度調査から緑の基本計画の改定に合わせ、概ね8年ごとに調査を実施することとしています。このパンフレットは、令和6・7年度に実施した調査の概要を示したもので、令和6年7月の航空写真を判読し、市内の緑被状況を把握するとともに、現地調査によって樹木の状況や道路に面した緑化、建物の壁面の緑化等、さらに緑に関する市民意識調査をまとめたものです。

武蔵野市



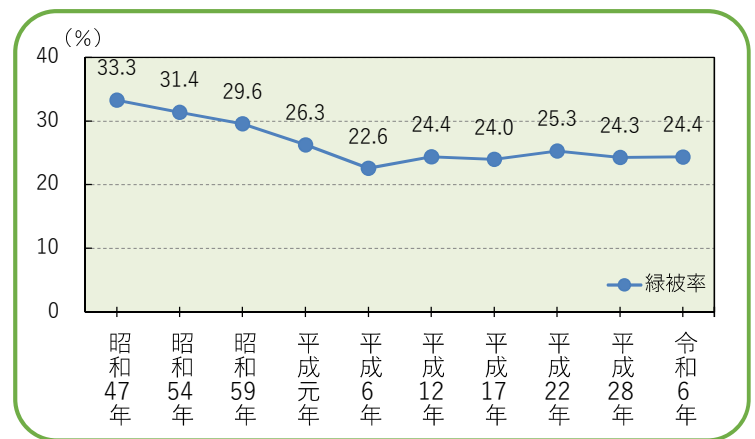
緑の構成

武蔵野市の緑の多くは、公園や敷地内の植え込み等の樹木地（200.28ha）であり、市の面積に対し18.2%を占めています。一方、草地（37.25ha）と農地（27.51ha）を合わせても5.9%であり、樹木地に比べると少なくなっています。なお、透水地（樹木地、草地、農地、裸地）面積は786.73ha、透水率は26.1%となっており、平成28年調査に比べると、0.4ポイント減少しています。



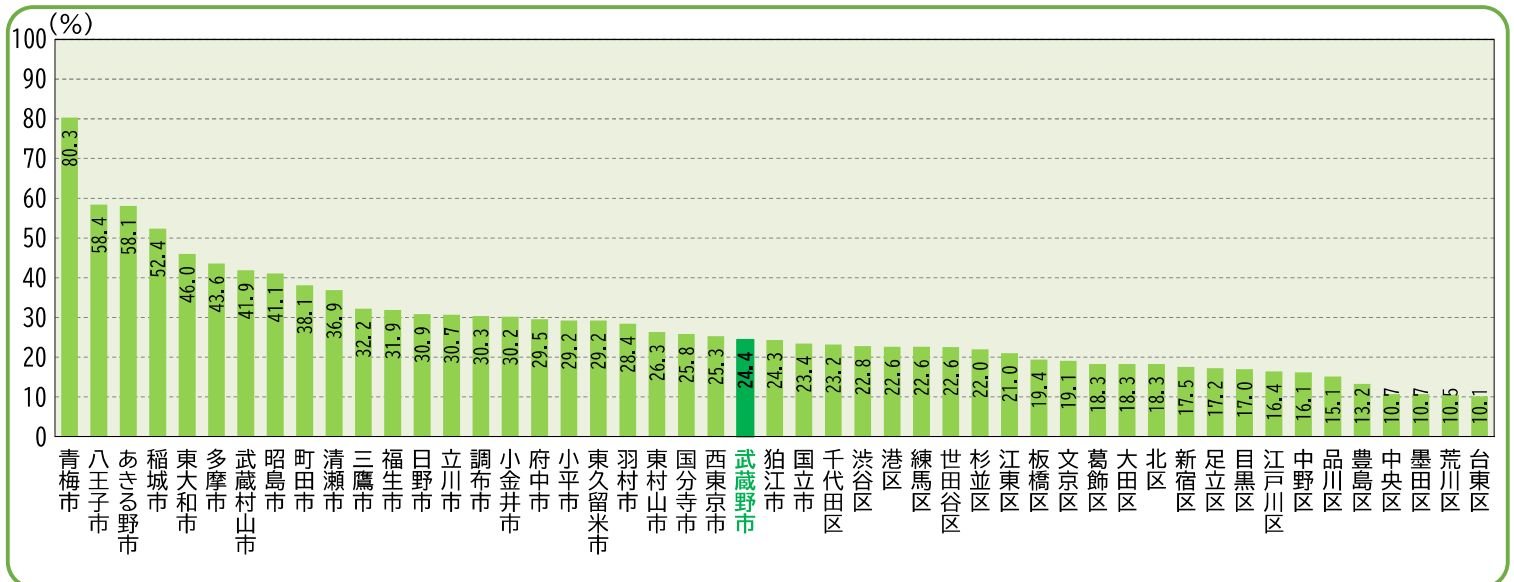
緑被率の推移

令和6年度の武蔵野市の緑被地（樹木地、草地、農地、屋上緑化）面積は267.70ha、緑被率は24.4%となっています。緑の実態調査を開始した昭和47年から平成6年まで緑被率は減少の一途をたどっており、この間で100haを超える量の緑が消失しました。平成6年以降の調査では、24%前後で推移しています。平成28年調査に比べると、緑被率は0.1ポイント増加しています。



都内区市の状況

区市によって調査年度、調査方法、調査精度が異なるため、各区市の緑被率を厳密に比較することは適当ではありませんが、現在公表されている数値を比較すると、武蔵野市の緑被率は23区26市中24番目とほぼ中間に位置します。



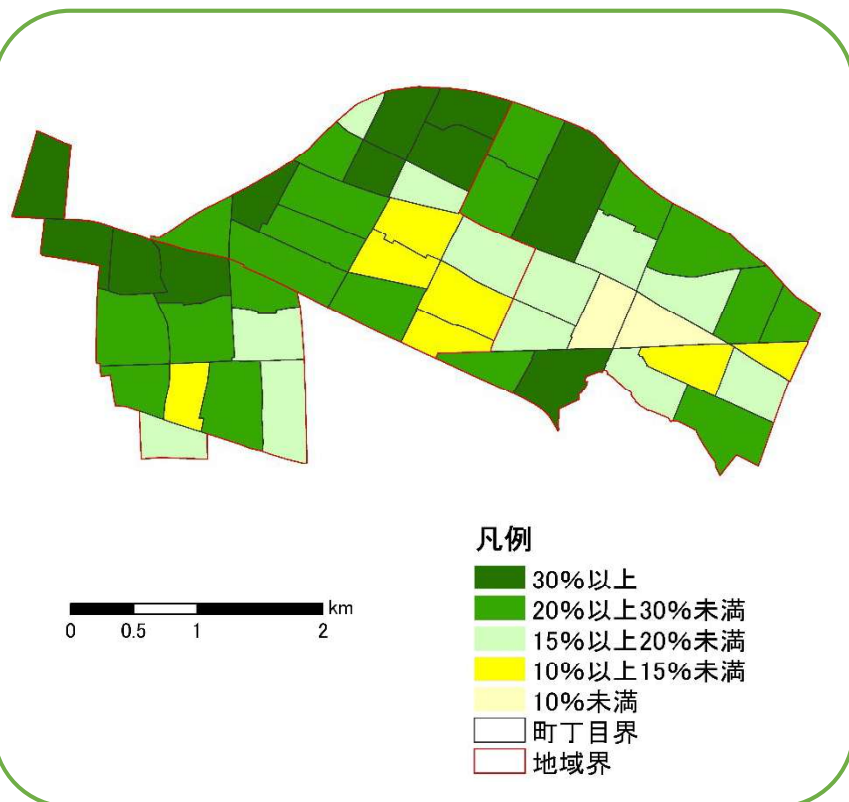


地域別緑被率の実態

市内の緑被率は北西地域で高く、東部地域や駅周辺地域で低い傾向があります。吉祥寺地域の住宅地では、戸建住宅の庭木を中心とした緑被地の分布が見られ、中央地域や武蔵境地域では、大規模な施設敷地や公園等が緑被地の中心となっています。また、農地の多くは西部地域に点在しています。平成28年調査との比較では、宅地化による農地の減少や建物の建替えなどに伴う樹木地の減少はあるが、樹木の生長や更地の草地化などによる増加もみられます。

■緑被率が高い町ベスト5

- 1位：御殿山 (44.4%)
- 2位：桜堤 (43.6%)
- 3位：八幡町 (37.9%)
- 4位：緑町 (30.1%)
- 5位：吉祥寺北町 (27.9%)



緑被地等の分布図



この地図は東京都縮尺1/2,500地形図（平成27年度版）を使用したものです。
（7都市基交測第79号・MMT利許第07-226号）

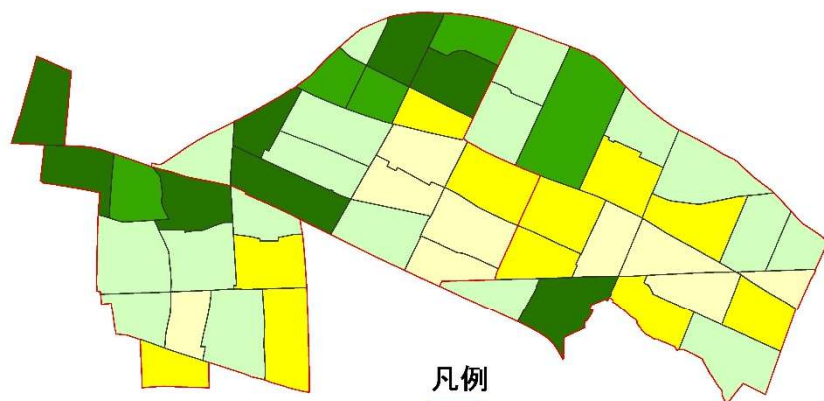


みどり地の状況

みどり地面積とは、緑被地と水面に、公園の緑被に覆われていない部分も合計したものです。みどり地面積の地区面積に占める割合を、みどり率といい、都市における緑と水のオープンスペースとして、東京都の緑化指標に使われています。市全域のみどり地面積は284.18ha、みどり率は25.9%でした。町丁目別にみると、みどり率が35%以上の町丁目は市の西部から北部に多いです。みどり率が15%未満の町丁目は、駅周辺の商業施設が分布する地区や公園の少ない町丁目となっています。

■みどり率が高い町丁目ベスト5

1位：桜堤三丁目	(69.3%)
2位：八幡町二丁目	(66.7%)
3位：御殿山一丁目	(65.1%)
4位：桜堤二丁目	(39.7%)
5位：境四丁目	(39.6%)



0 0.5 1 2 km

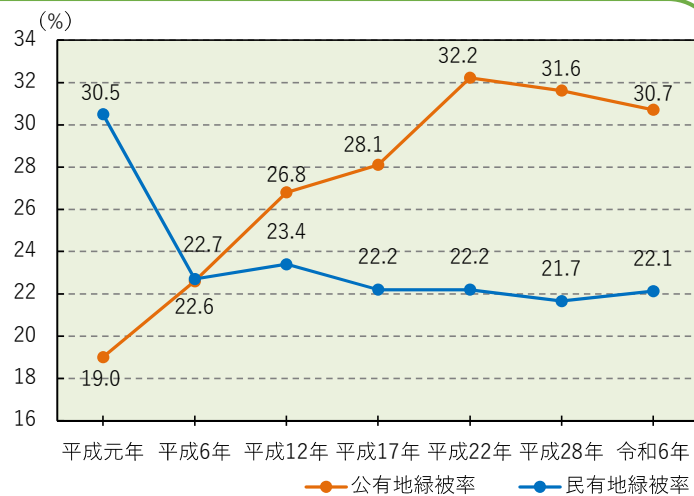
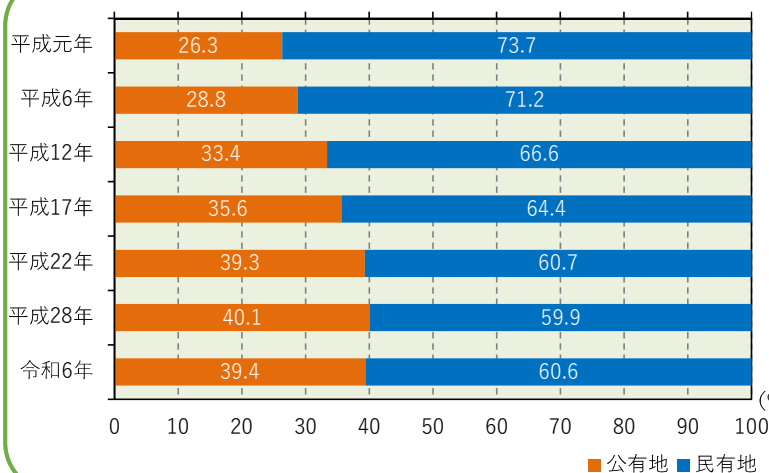
凡例

- 35%以上
- 30%以上35%未満
- 20%以上30%未満
- 15%以上20%未満
- 15%未満
- 町丁目界
- 地域界



民有地の緑と公有地の緑

緑被地のうち、民有地と公有地の割合をみると、平成元年調査で73.7%あった民有地の割合が、平成22年調査まで減少し60.7%となりました。それ以降は、60%前後で推移していますが、約6割の緑が民有地にあり、市内の緑の多くは、民有地に依存している状況が見られます。一方、緑被率は、民有地が22.1%、公有地が30.7%となっています。平成28年調査に比べると、民有地は0.4ポイント増加、公有地は0.9ポイント減少しています。



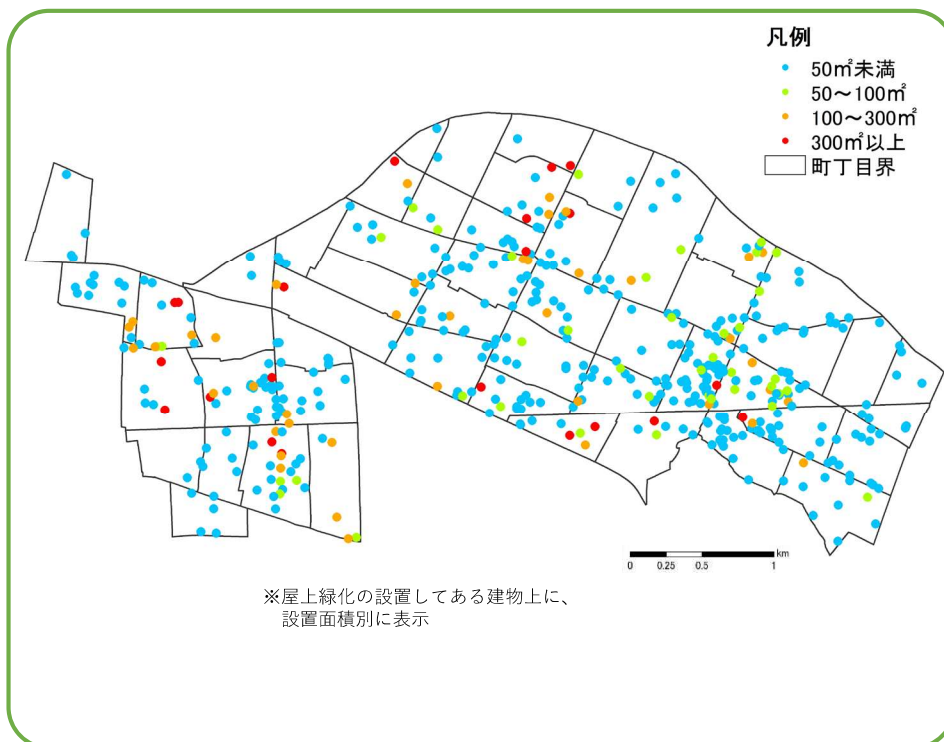


屋上緑化

屋上緑化箇所数は468箇所、屋上緑化面積は26,632㎡でした。平成28年調査との比較では、5,053㎡増加しました。武蔵野クリーンセンターに屋上緑化を新たに整備したことによる増加のほか、吉祥寺東町、桜堤以外のすべての町で増加が確認されました。

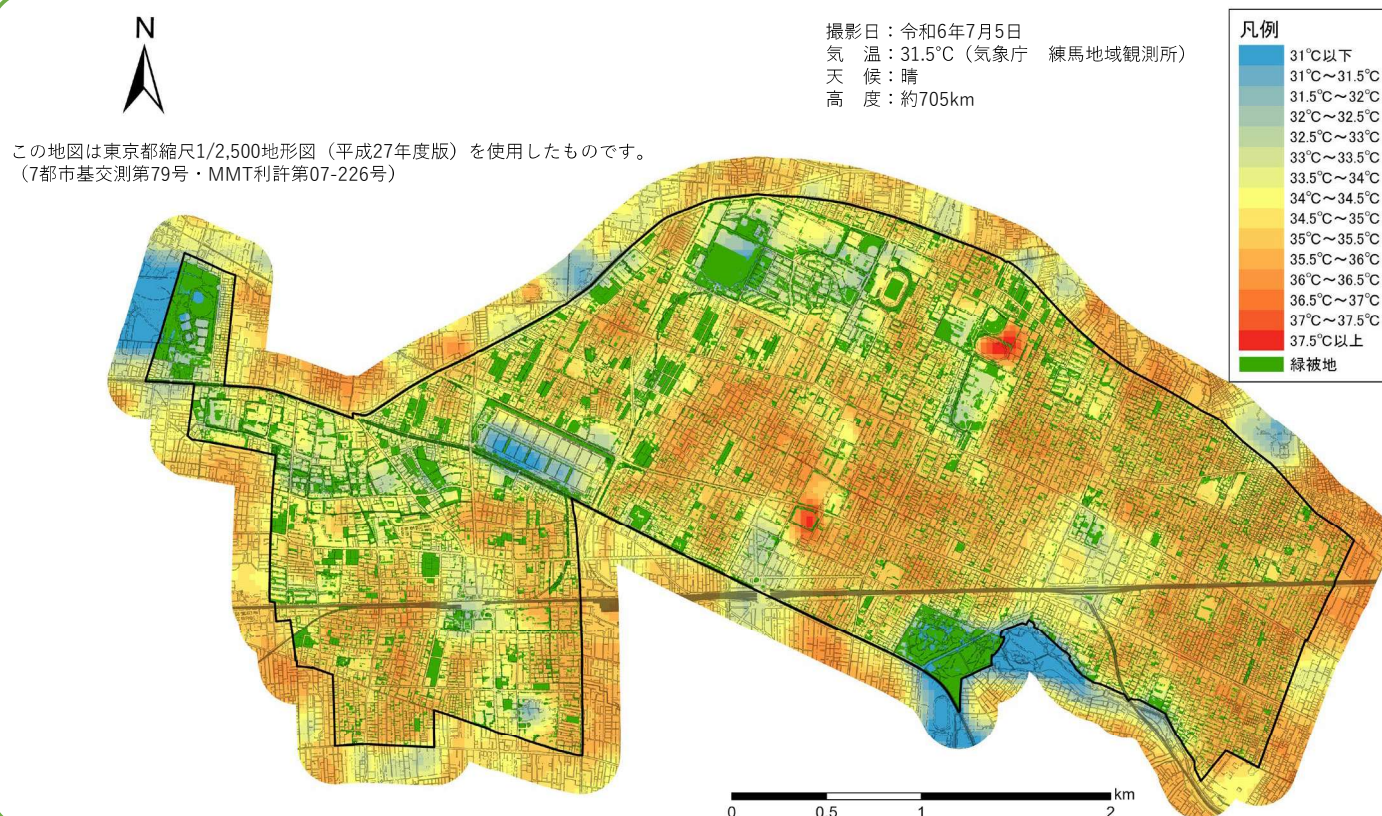
■屋上緑化率が高い町丁目ベスト5

- | | |
|-------------|--------|
| 1位：御殿山二丁目 | (1.1%) |
| 2位：桜堤一丁目 | (0.9%) |
| 3位：御殿山一丁目 | (0.8%) |
| 4位：吉祥寺本町二丁目 | (0.8%) |
| 5位：境南町二丁目 | (0.7%) |



地表面温度マップ

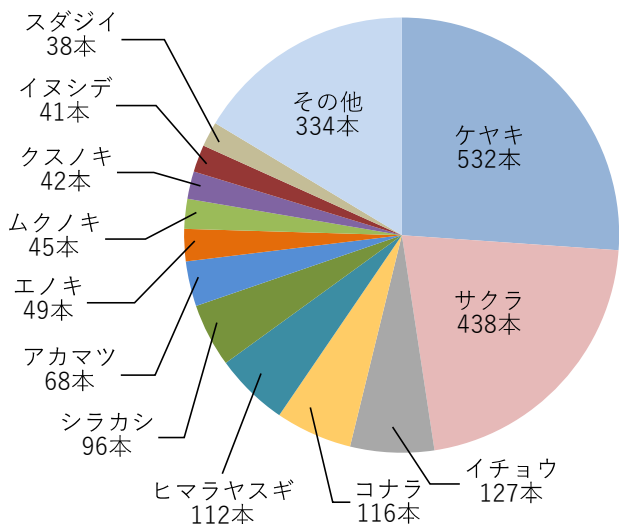
衛星画像より取得した熱赤外画像を使用して地表面の温度を算定し、緑被地分布図と重ね合わせました。





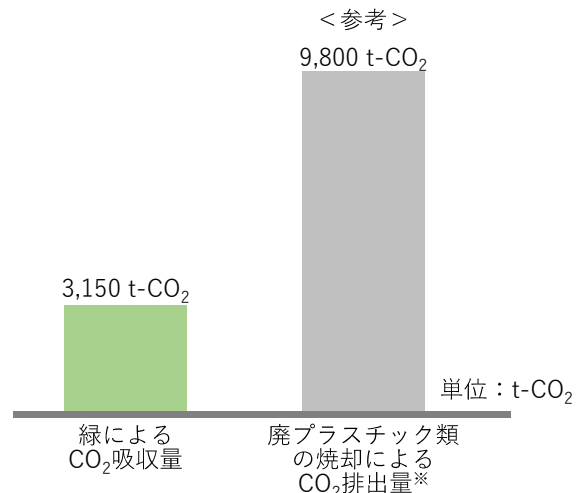
大木の実態

市街地で失われがちな大木を守り育てることは、きわめて重要です。令和6年調査では、「大木・シンボルツリー2000計画」に基づく保存樹木とシンボルツリーがそれぞれ900本と1,138本の合計2,038本確認されました。最も多い樹種はケヤキで532本、次いでサクラが438本、イチョウが127本でした。



二酸化炭素吸収量

国土交通省「低炭素まちづくり実践ハンドブック 資料編（平成25年12月）」を参考に、緑被調査で把握した樹木地面積による二酸化炭素吸収量を試算しました。市全域の年間の緑による二酸化炭素吸収量は3,150t-CO₂となりました。

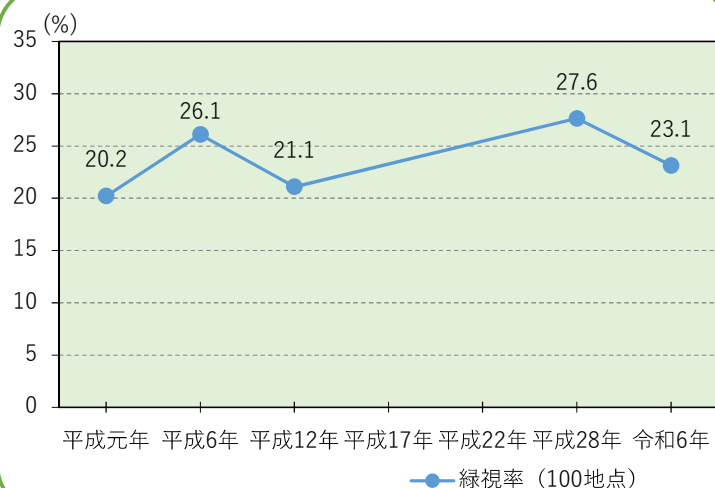


※ オール東京62市区町村共同事業「みどり東京・温暖化防止プロジェクト」資料より、最新データの令和元年から令和5年度までの平均値



緑視率

緑視率とは、ある地点における「見た目」の緑の割合であり、人が実感できる緑の量の指標として調査されています。今回の調査では、平成28年調査の100地点のほか、新たに100地点を加えた200地点の測定を行いました。これまでと同様の100地点における市域全域の平均緑視率は23.1%であり、平成28年調査と比較して4.5ポイント減少しました。人が「緑が多い」と感じるとされる、緑視率25%以上の地点は、平成28年調査では、住宅地において77地点中53地点ありましたが、今回の調査では、同じく77地点中31地点と減少しました。これらの減少には、剪定や刈込といった適正な維持管理によるものも含まれています。200地点における市域全域の平均緑視率は20.8%でした。用途地域別では、中高層住居専用地域が24%以上と高くなっています。

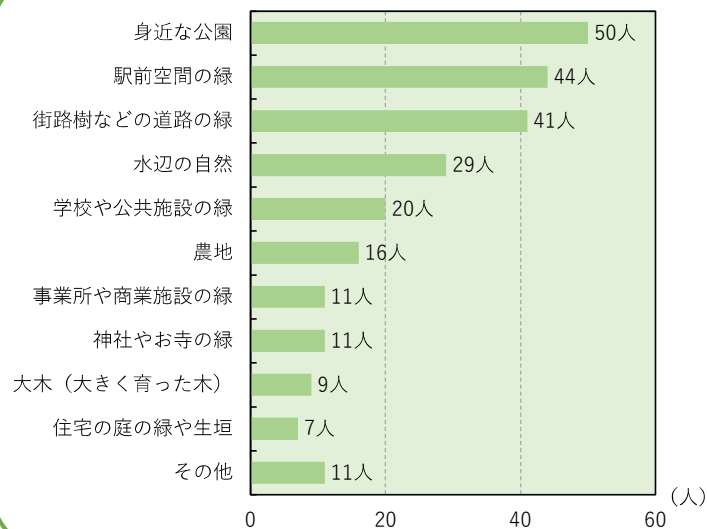
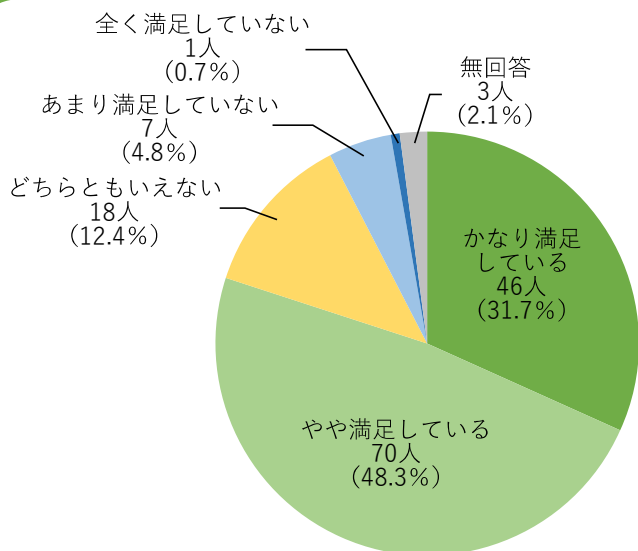


用途地域	地点数	平均緑視率 (%)
第1種低層住居専用地域	101	22.4
第1種中高層住居専用地域	30	24.7
第2種中高層住居専用地域	7	25.1
第1種住居地域	15	23.0
近隣商業地域	17	12.1
商業地域	22	12.9
準工業地域	8	20.9



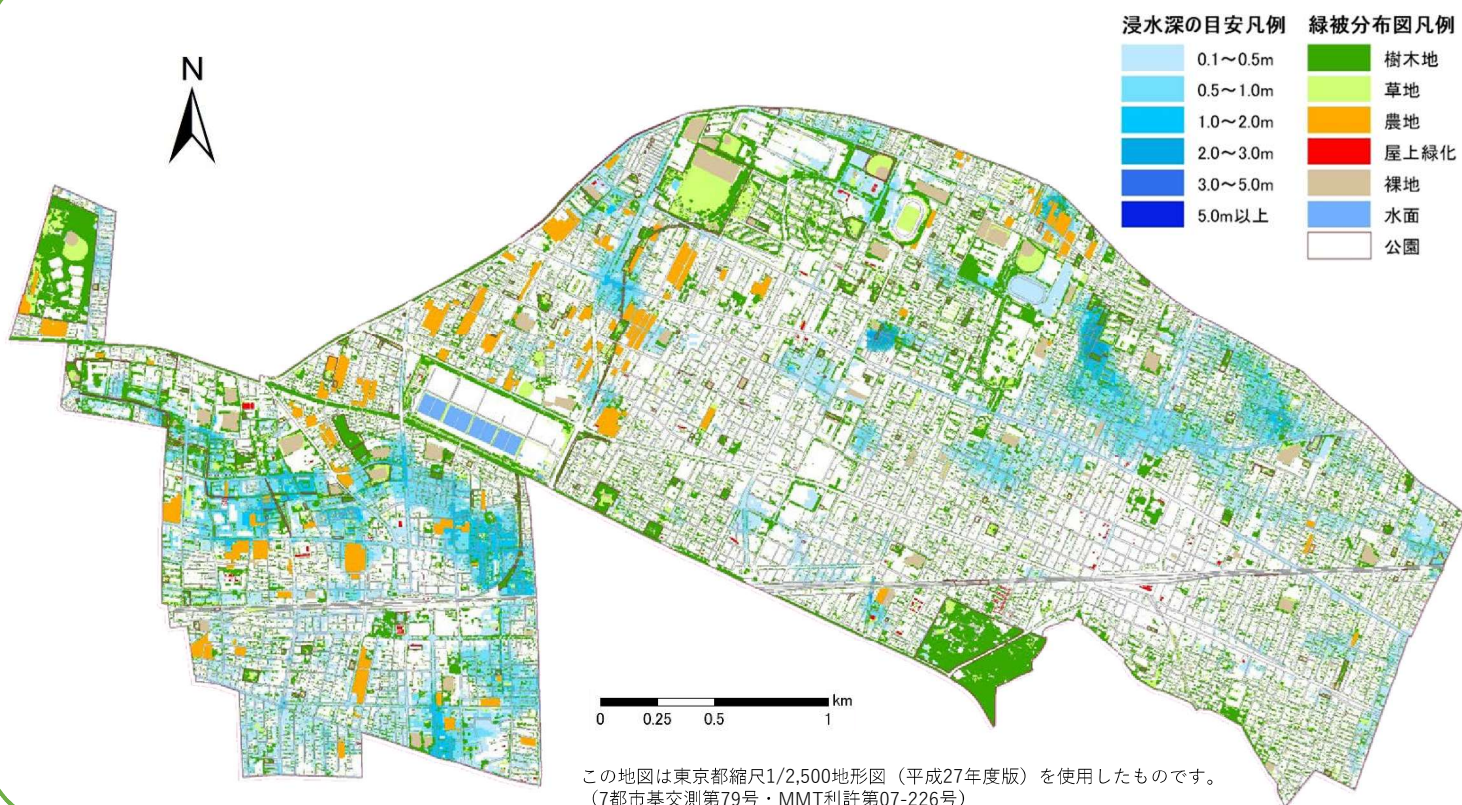
緑に関する市民意識調査

緑に関する市民意識調査（配布数500通、回収数145通）を実施しました。武蔵野市の緑については、「やや満足」（48.3%）、「かなり満足」（31.7%）と回答した割合が約80%となり、市民の緑に対する満足度は高いことがわかりました。一方、満足していないと回答した割合は約5%と低くなっています。今後増やしてほしい緑としては、身近な公園が50人で最も多く、次いで駅前空間の緑が44人、街路樹などの道路の緑が41人となり、公共空間における緑を増やしてほしいという声が多くなっています。



浸水ハザードマップと緑被分布図の合成図

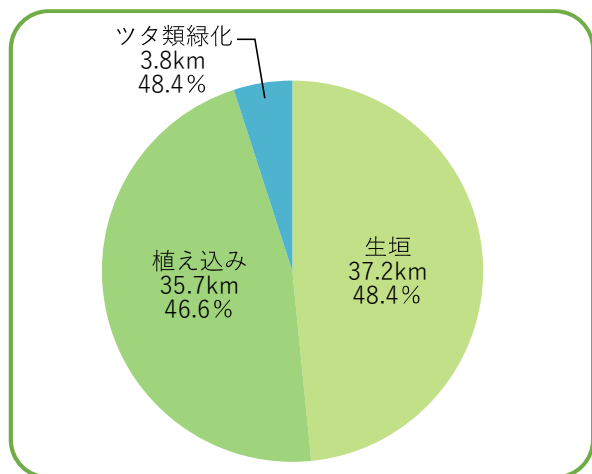
水害発生時に発揮される緑の効果について把握するため、浸水ハザードマップと緑被調査の結果を重ねあわせて合成図を作成しました。





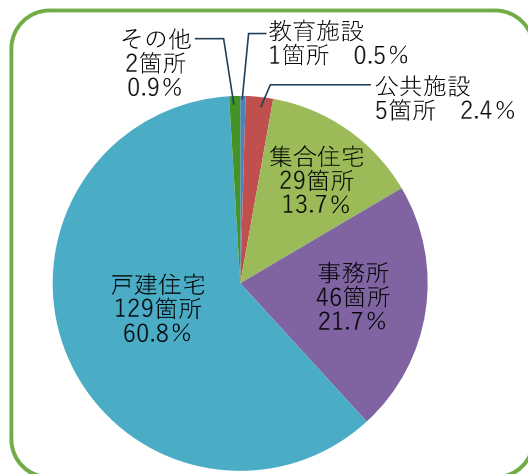
道路に面した緑

宅地の道路に面した部分（接道部）の緑化は街並みの形成などに大きく貢献します。接道部緑化の総延長は76.7kmであり、平成28年調査に比べると接道部緑化率が1.7ポイント増加しています。箇所数は6,872箇所と1,149箇所増加し、一箇所あたりの平均延長は11.16mとなります。接道部の形態では、生垣や植込みが多く、樹種では、カナメモチやオオムラサキツツジが多くみられます。



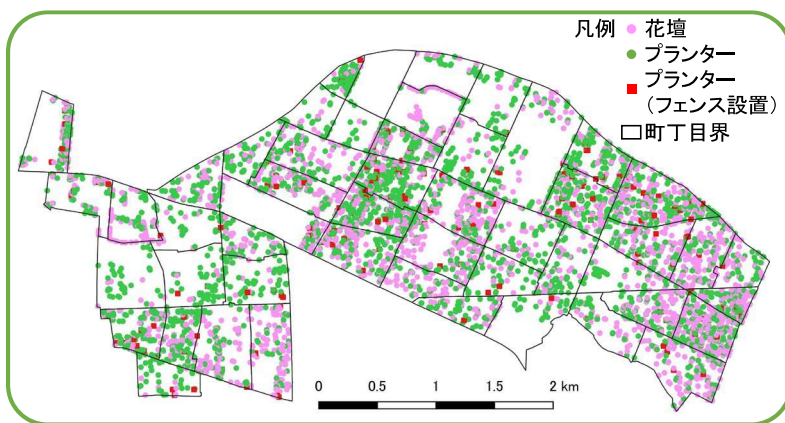
壁面緑化

建物の壁面を利用した緑化は、美しい都市景観を創出し、温暖化の抑制や環境保全などに貢献します。令和7年調査の市域全域の箇所数は212箇所、総面積は3,832㎡であり、1箇所あたりの緑化面積は18.08㎡でした。壁面緑化は戸建住宅（129箇所、1,472㎡）、事業所（46箇所、1,273㎡）、集合住宅（29箇所、878㎡）の民有地に多く整備されており、それらを合わせると全体箇所数の約96%を占めています。



花壇

市全域の幅員概ね3.6m以上の道路に面する花壇及びプランターについて調査を行いました。花が植えられている花壇等は5,456箇所、4,631㎡ありました。そのうち花壇は1,814箇所、2,537㎡、プランターは3,642箇所、2,094㎡でした。



街路樹

武蔵野市が管理する街路樹を調査しました。高木の街路樹は、2,580本確認できました。最も多い樹種はサクラで580本、次いでイチョウが417本、ハナミズキが397本でした。

